

台湾における合板産業

台湾の合板産業は 80 年近くにわたり発展してきた。国内外の様々な課題に直面しながらも、合板産業は持続可能な方法で改善と発展を続けてきた。

(合板用原木)

合板用原木は、初期の南洋産広葉樹から、最近ではニュージーランド産ラジアータパインがあり、輸入単板から普通合板や化粧合板 (Decorative plywood) を製造する場合もある。

台湾の合板は、1964 年と 1965 年にはアメリカの輸入市場で第 1 位となり、1966 年には世界第 2 位の輸出国となった。1971 年時点で、台湾の合板の輸出比率は 94% に達した。1973 年、合板の輸出量は 110 万立米、輸出額は 2 億 2,700 万米ドルに達し、繊維産業、電子産業に次いで全産業中第 3 位となった。

(合板の種類)

合板の種類は、初期の普通合板から、ランバーコア合板 (Lumber core plywood)、パーティクルボード (Particle board)、ファイバーボード (Fiberboard)、複合フローリング (Composite wood flooring)、単板積層材 LVL (Laminated veneer lumber) などが次々と増え、さらには、防水、防災、難燃、防虫、低ホルムアルデヒドなどの機能を持つ合板が開発されて、製品の付加価値が高まり、市場がセグメント化されるようになった。

(品質管理)

合板の品質管理に関しても、内政部のグリーン建材標章、標準検閲局の CNS Mark、型式認可証書、検証登録証書、經濟部産業発展署の MIT 標章、持続可能林業を示す国際 FSC-CoC 認証、日本の JAS マーク、カリフォルニア州の CARB 認証など、様々な木製品の国内外の認証を積極的に取得している。これらの取得は製品の品質を守るだけでなく、社会的責任を果たすという企業のコミットメントを示すものでもある。

(安全基準)

さらに、居住空間におけるホルムアルデヒドまたは揮発性有機ガス VOC の濃度が基準を満たせるよう、經濟部標準検閲局は 2013 年に木質系パネル製品検査作業規定を策定し、各種合板製品からのホルムアルデヒド放散量を検査項目に加えた。

なお、CNS 標準では乾燥機法を用いて木製品のホルムアルデヒド放散量を測定するとしており、放散量は次表のように、F₁、F₂、F₃ で示される。

ホルムアルデヒド放散量基準

表示記号	平均値 (mg/L)	最大値 (mg/L)
F ₁	0.3 以下	0.4 以下
F ₂	0.5 以下	0.7 以下
F ₃	1.5 以下	2.1 以下

(原木輸入各港の割合)

四方を海に囲まれた台湾では、海上輸送が経済と貿易の発展に欠かせない。現在、台湾には基隆、台北、台中、安平、高雄、花蓮、蘇澳の7つの主要国際商業港がある。過去10年間、台湾の原木輸入は高雄港と台中港が中心であり、各年各港の輸入割合は次表の通りである。

台湾の港別原木輸入割合 (%)

年 港湾	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
高雄港	62.01	73.65	88.57	87.83	92.17	93.59	97.47	100	100	100	100
台中港	37.99	26.35	11.43	12.17	7.83	6.41	2.53	-	-	-	-

(台湾の合板工場分布)

台湾各県市の合板製造業者の分布は次表のように、高雄市に集中している。

市または県	企業名	企業数
台北	一品、茂森、通越	3
台中	振昌、克聯、裕森	3
嘉義	萬財、三朋行、吉隆、億年、森懋	5
高雄	元鴻、亞洲、新亞、元厚、上采、正源、廣大森、冠帝、華興、 福德、鳳山、龍耀、上品、川興、合輝、奇煒、威易、川記	18
屏東	三夏、太子、偉銘、瑞漢、崇霖、木林森	6